

AED使い講習会

市の全職員が対象

8月下旬まで計20回

岡原市
福岡市

福岡県前原市は、市役所や公民館などの公共施設に近く、33台のAED(自動体外式除細動器)が配備されることから、市の全職員を対象にした「普通救命講習会」を順次開催している。同市議会公明党の笹栗純夫議員の提案が実ったもので、5月23日に市役所で行われた初の講習会には、同議員も駆け付け、松本領男市長や職員とともにA

EDを使った応急手当ての実技に挑戦した。

AEDは、福岡県市町



AEDを使った応急手当てに真剣に取り組む笹栗議員(右から2人目)や松本市長(同3人目)ら

の実施を」と迫り、中田直喜助役が2006年度研修概要を策定する中で具体的な検討を行うと約していた。講師は、

村振興協会から配布を受け、市役所や校区公民館、小・中学校などに配備する。講習会の開催について、笹栗議員が今年3月議会で、「市の研修制度を活用して救命講習

糸島消防本部(同市、二丈、志摩両町で構成)の救命救命士で、8月22日まで合計20回実施される。対象は、市立小・中学校教諭や嘱託職員を含む全職員。1回当たり30人が受講する。

23日の講習会では、松本市長が「市民の生命、財産を守るのが、われわれに課せられた使命。(講習を通して)市民生活を守る心構えを」とあいさつ。応急手当ての基礎知識をビデオで学んだ後、救命救命士の指導で人工呼吸や心臓マッサージなどの心肺蘇生法、AEDを用いた救命法、止血法などの実技に真剣に取り組んだ。